

## 第2回海岸事業評価手法研究会」における議論の整理とその対応方針(案)

発言要旨	キーワード	対応方針		
(1)新規事業採択時の評価手法について				
【清野委員】 海岸利用のしやすさの評価について、テーマ海岸事業による評価もあるが、個々の海岸計画論の中で、そういった具体的な対策が盛り込まれているかで評価してはどうか。	評価指標 海岸利用のしやすさ	標題の変更を行い、評価指標に「それに相当するもの」という文言を追加する。		
【清野委員】 海辺のアプローチ性について、階段護岸ばかりになり人工的になって場にそぐわなくなる危険性がある。	評価指標 海辺へのアプローチ性	解説に「連続した海岸護岸に限らず」という文言を追加する。		
【鳥居委員】 アクセスの評価は、200メートルごとという仕様を示すことより、動線に応じたアプローチが確保されていること」と言った表現もあるのでは。	評価指標の解説 海辺へのアプローチ性	解説を「動線の応じたアプローチが確保され」という文言に変更する。尚、何らかのしきい値が必要なので、内規として200メートルごとを点数付けの参考とする。		
【清野委員】 評価と並行して、どうすべきか、どう配慮すべきかという整理・アドバイスする仕組みも検討する必要がある。	評価者・アドバイザー	今後の課題とし、本研究会では検討を行わないこととする。		
【三村委員】 外国の海岸が美しいのは背後の砂丘を含めて保全されているのが大きな要因である。日本では海へのアプローチをよくすると、砂浜ぎりぎりに駐車場を造るセンスとなっている。アプローチ改善のあり方についての検討も必要である。	アプローチ性の意義	今後の課題とし、本研究会では検討を行わないこととする。		
【清野委員】 場所により考え方が異なる時、細かい点をどこまでサポートできる評価になるかが大事である。	詳細な評価	自然環境、海辺の利用、景観等のチェックリストを作成し、各委員からもご意見を頂くこととする。また、「評価の観点」を追加することとする。		
【鳥居委員】 利用に関連する連携事業では、利用プログラムがしっかりできていることが前提になるので				
【清野委員】 自然の磯をつぶして二次的に形成された海岸生態系を観察するプラットフォームを作るという整備もあり、生態系保全としては本来的ではない。ソフト面の評価は大事であり、細かい点に配慮した計画の質を評価することが重要。				
【清野委員】 計画策定にあたっては、プロセスを重視し、状況に応じた柔軟性をもった対応とすべきである。				
【清野委員】 保全計画の考え方について、空間・時間をフレキシブルに考えることで、柔軟な対応ができる。				
【清野委員】 防波堤の延伸など、明らかに海岸侵食が想定される場合の海岸事業の評価の考え方を整理する必要がある。				
【清野委員】 自然再生や河口湿地の復元など地球環境保全に寄与するものはB/Cに入れてもよいと思う。また防災上にも寄与するならば、併せて評価すべきである。				
【肥田野座長】 自然再生の取り組みのところで、モニタリングを含めて追加してはどうか。			評価項目の追加	新たに「モニタリングの実施予定」を評価項目に追加。
【三村委員】 当該事業に隣接する関連事業の状況の項で、都市計画・土地利用計画といった内陸側の計画との関連付けが重要である。また、海岸法改正に伴う広域的・長期的視点を、海岸保全基本計画や施設整備計画の中に取り入れる仕組みを作ることが重要である。			海岸保全基本計画	現在、海岸保全基本計画を策定中の段階であり、今後の課題とする。
【三村委員】 自然環境の保全は、状況把握、保全、再生の順番が望ましい。	評価項目の順序	評価項目の順序を入れ替えた。		
【肥田野座長】 地元の協力体制について、頻度を高くして、点数の差をつけてほしい。	評価点数 地元の協力体制	清掃等毎年実施している場合を5点から4点とし、年2回以上を5点とした。		

発言要旨	キーワード	対応方針
(2)感度分析について		
【三村委員】 事業効率(費用対効果)にもっと重みを付けた場合の、感度分析を行ってはどうか。	重み付け	事業効率自身に点数差がないため重み付けを行っても参考にならないため、費用対効果に点数を設定し、それにより、重み付けに変化をもたせ、感度分析を行うこととする。
【島居委員】 縦軸 横軸でどう移動したかを分析すること。	分析手法	第3回研究会で参考資料とする。
【清野委員】 環境事業も観光等への経済効果もあるということを取り入れられないか。	新手法	現状では、技術的に定量的指標設定が難しいため、今後の研究課題とする。
(3)親委員会の提言について		
【清野委員】 自然環境をどう評価するか、というのは河川 海岸事業の特異性でありその点が伝わるようにしてほしい。		文言の追加。(資料 - 6参照)
【肥田野座長】 環境の評価みたいなのを重視していくという立場から言うと、国民にとってプラスであるということとを説明するという視点から、取り組んでいくというスタンス、今後の課題として取り組む価値があると記述した方が良い。		文言の修正。(資料 - 6参照)
【肥田野座長】 防災の不確実性を取り上げているが、価値観の不確実性もある。これについて取り扱えていないということではないか。道路のように起こることが確実にわかる事業と同じ土俵で勝負しない方が良いという考え方より、異なるものであるということをしっかり主張した方が良い。		文言の修正。(資料 - 6参照)
【肥田野座長】 公平性の概念について心理的な部分を評価するという視点は良い主張である。公平性、緊急性の概念を取り入れるべきだという主張にした方が良い。事業効果、波及的影響 公平性、緊急性、実施環境 の3本柱で評価する体系とする。		波及的影響 公平性、緊急性が大事であるということと再整理する。